

# 令和4年度中四国技術職員研修参加報告

フィールド科学系部門 生物生産技術班 日山 薫

## 1. はじめに（目的等）

本研修は中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員相当の職にあるものに対して実施された研修である。技術職員としての職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門知識、技術等を習得し、自身の職員としての資質向上を図ることを目的として参加した。

## 2. 期間・場所

期間：令和4年8月24日～8月26日

場所：鳥取大学 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101

## 3. 参加者等

31名

## 4. 研修内容

講義

- ・ロケット開発の歴史と現場
- ・小惑星リュウグウの起源と進化
- ・高専における学生・教員・技術職員連携による衛星開発を通じた宇宙人材育成
- ・「みどりの食糧システム戦略」概要について
- ・農業安全工程管理(GAP)の内容とそのメリット
- ・GAP 認証取得の取り組みについて
- ・スマート農業の現在
- ・カーボンニュートラル実現のための地域資源を活用したバイオ燃料生産
- ・カーボンニュートラルに関する鳥取大学の取り組みについて
- ・鳥取県日南町の”森と人づくり”～脱炭素社会に向けたSDGs 未来都市の挑戦～

現地視察

田中農場(鳥取県八頭郡八頭町)

## 5. まとめと感想

宇宙関連の講義は自分にとって完全に分野外の内容であったが、大変興味深く、非常に有意義なものであった。特に小惑星探査機はやぶさの回収物の分析については、今後の発表や次回の調査に注目したいと感じさせる内容であった。

GAPに関する講義では、食料生産の全工程について食品安全、労働安全、環境保全の観点で「やらなければならないこと」やリスクを抽出して、5S・PDCA サイクルを基本として実践することで、将来的に持続可能な農業を実現することがGAPであるということ学んだ。また、そのメリットや

実際の現場での取り組みについて学び、問題点の改善やリスク管理の観点から将来的に西条ステーションにおいても GAP 認証の取得を目指しても良いのではないかと考えた。

その他にスマート農業やカーボンニュートラルなど、人手不足や環境問題の解決に向けた農業における新たな取り組みについて学ぶことができた。

今回の研修では農作物に関する内容が中心であったが、今後畜産分野に関する研修があれば是非参加してみたい。